

2021年5月17日

あおぞら投信株式会社

「若さとは 眩しくもあり 青く見え

まだこれからと 永遠の若さも」

2020年下期の芥川賞は『推し、燃ゆ』の宇佐見りんさん(21歳)、直木賞は『心淋し川』西條奈加さん(56歳)が受賞しました。これまで芥川賞では『蹴りたい背中』(2003年下期)で受賞した綿矢りさんの19歳が最年少で、『蛇にピアス』の金原ひとみさん(20歳)に次ぐ3番目の若さでの受賞となりました。芥川賞は1935年(昭和10年)、芥川龍之介の業績を記念して、友人の菊池寛が直木三十五賞(直木賞)とともに創設し、この年以降年2回発表されることになった日本で代表的な文学賞のひとつです。

芥川賞は「最も優れた純文学の無名あるいは新人作家に与えられる文学賞」で、初回は『蒼氓』の石川達三さん(当時30歳)です。対象となる“無名”と“新人作家”という表現については時々議論になります。1955年下期に『太陽の季節』の石原慎太郎さんが23歳で、1958年上期に『飼育』の大江健三郎さんが23歳で受賞。そして1966年下期に『夏の流れ』で受賞した丸山健二さんの23歳が長い間最年少でした。一方、それまで『月山』(1973年下期)で受賞した森敦さんの61歳が最高齢記録でしたが、2012年下期に黒田夏子さんが75歳の時にデビュー作『abさんご』で受賞し、記録を更新しました。

そもそも文学とは、自分の実体験、自分の感じてきたこと、さらに自分の想像することなどを元に表現することであり、個々の違いがあるという意味でも年齢には関係ないとも言えます。また人生についてその価値は誰が決めるものでもなく、長さでもないでしょう。また“若い”とはいつまでが“若い”という定義なのかも人それぞれと言えます。特に何かを表現して伝えたいと思い、実現しようと挑戦する限り、“新人”のチャンスがあるのです。だから何歳になろうと生み出すことに悩み苦しむ覚悟が必要なのでしょう。

柳谷俊郎

□芥川賞受賞者年少者・年長者□

年齢	受賞回(受賞年)	名前	作品名
19歳	130回(2003年下期)	綿矢 りさ	『蹴りたい背中』
20歳	130回(2003年下期)	金原 ひとみ	『蛇にピアス』
21歳	164回(2020年下期)	宇佐美 りん	『推し、燃ゆ』
23歳	34回(1955年下期)	石原 慎太郎	『太陽の季節』
23歳	39回(1958年上期)	大江 健三郎	『飼育』
23歳	56回(1966年下期)	丸山 健二	『夏の流れ』
23歳	120回(1998年下期)	平野 啓一郎	『日蝕』
23歳	136回(2006年下期)	青山 七恵	『ひとり日和』
?	?	?	?
54歳	158回(2017年下期)	石井 遊佳	『百年泥』
55歳	94回(1985年下期)	米谷 ふみ子	『過越しの祭』
57歳	98回(1987年下期)	三浦 清宏	『長男の出家』
61歳	70回(1973年下期)	森 敦	『月山』
63歳	158回(2017年下期)	若竹 千佐子	『おらおらでひとりいぐも』
75歳	148回(2012年下期)	黒田 夏子	『a bさんご』

？芥川賞ってどんな賞？
 新進作家による純文学小説に与えられる文学賞で、新聞や雑誌に発表済みの短編・中編作品が対象となる。正賞は懐中時計、副賞は賞金100万円で、受賞作は雑誌『文藝春秋』に掲載される。
 現在の選考委員は、小川洋子、奥泉光、川上弘美、島田雅彦、平野啓一郎、堀江敏幸、松浦寿輝、山田詠美、吉田修一の9名。
 第153回(2015年上期)にはピースの又吉直樹さんが『火花』で受賞。お笑い芸人として初めて受賞し話題となった。この作品は芥川賞受賞作品の中で一番売れた作品である(2021年5月時点)。

出所：各種報道を基にあおぞら投信が作成。

本資料は情報の提供を目的としており、何らかの行動を勧誘するものではありません。本資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。ここに示された意見などは、本資料作成日現在の当社の見解であり、事前の予告なしに変更される事もあります。投資信託の取得に当たっては、投資信託説明書(交付目論見書)等の内容を必ずご確認の上、ご自身でご判断ください。

商号：あおぞら投信株式会社 金融商品取引業者：関東財務局長(金商)第2771号
 加入協会：一般社団法人投資信託協会 ホームページ・アドレス：http://www.aozora-im.co.jp/